



## もう一度確認しよう 特別警報、警報、注意報の違い

4月は低気圧が日本付近を発達しながら通過することが多く、天気の変化が激しい月です。夏に向けて、強風や大雨、台風といった自然災害が発生しやすくなります。

気象庁が発表する特別警報や警報、注意報、そして火災に関する火災気象通報と火災警報をもう一度確認して、いつでも適切かつ安全に行動できるように心掛けましょう。

### 特別警報 ※本市に関わる特別警報のみ

警報の発表基準をはるかに超え、重大な災害が発生するおそれが著しく高まっている場合に発表されます。

- ・大雨特別警報 台風や集中豪雨により数十年に一度の降雨量となる大雨が予想される場合
- ・大雪特別警報 数十年に一度の降雪量となる大雪が予想される場合
- ・暴風特別警報 数十年に一度の強度の台風や同程度の温帯低気圧により暴風が吹くことが予想される場合



### 警報 ※本市に関わる警報のみ

重大な災害が発生するおそれのある場合に発表されます。

- ・大雨警報 大雨による重大な土砂災害や浸水害が発生するおそれがあると予想された場合
- ・洪水警報 河川の上流域での大雨や融雪によって下流で生じる増水やはん濫により重大な洪水災害が発生するおそれがあると予想された場合
- ・大雪警報 降雪や積雪による住宅等の被害や交通障害など、大雪により重大な災害が発生するおそれがあると予想された場合
- ・暴風警報 暴風により重大な災害が発生するおそれがあると予想された場合



### 注意報 ※本市に関わる注意報のみ

災害が発生するおそれのあるときに注意を呼びかけるために発表されます。

- ・大雨注意報 大雨による土砂災害や浸水害が発生するおそれがあると予想された場合
- ・洪水注意報 河川の上流域での大雨や融雪によって下流で生じる増水により洪水災害が発生するおそれがあると予想された場合
- ・大雪注意報 降雪や積雪による住宅等の被害や交通障害など、大雪により災害が発生するおそれがあると予想された場合
- ・強風注意報 強風により災害が発生するおそれがあると予想された場合
- ・風雪注意報 雪を伴う強風により災害が発生するおそれがあると予想された場合
- ・雷注意報 落雷のほか、急な強い雨、竜巻等の突風、降ひょうといった積乱雲の発達に伴い発生する激しい気象現象による人や建物への被害が発生するおそれがあると予想された場合
- ・濃霧注意報 濃い霧により災害が発生するおそれがあると予想された場合
- ・乾燥注意報 空気の乾燥により災害が発生するおそれがあると予想された場合
- ・霜注意報 霜により災害が発生するおそれがあると予想された場合
- ・低温注意報 低温により災害が発生するおそれがあると予想された場合

### 火災に関する通報と警報

上記以外にも火災に関する気象通報と警報があります。

#### ●火災気象通報とは？

現在の気象の状況が、火災気象の発表条件に該当して火災の予防上危険であると認められた場合に、気象庁から茨城県知事に通報されるものです。

#### 発表条件

- ・乾燥注意報が発表されたとき（実効湿度が60%以下かつ最低湿度が40%以下）
- ・強風注意報が発表されたとき（平均風速12m/s以上）

#### ●火災警報とは？

現在の気象が、火災警防上危険であると認められた場合に、当本部の市長または消防長が発令するものです。

